

大和魂再生

ニッポンの敵

酒井信彦



◆ 5 ◆

の見方を「自虐史観」と呼んで批判した。この自虐史観なる名称は、便利なものではあるが、私としては大きな違和感を覚える。なぜなら、自虐史観派の人々は、自分自身に少しも心の痛みを感じていないからである。

そのものである。虐日と偽善の合体であるから、彼らの考え方の正体は、「虐日偽善」であると私は断定する。

前回述べたように、歴史問題で中国や韓国にやられ続けた根本的責任は、政治権力にある。ただし、政治権力をそのように仕向けた勢力が、わが国には強固に存在することを見逃してはならない。それはマスコミを中心とする、中国や韓国の主張に積極的に同調して、常に歴史の反省を強要する人々である。

それらの勢力のことを、保守派の人々は「左翼」だと捉えているが、そのような理解は実は正しくない。その中には自民党の政治家もおり、日本のカトリックの最高首脳である司教団もいるから、左翼だけでなく広汎な人々に及んでいる。

また、1990年代から保守の人々が、新しい歴史教科書運動を起こしたが、反省派の歴史

日本人自己美化し他人貶め利用し歴史問題

自虐の「虐」とは「いじめ」であるが、その対象に自分は含まれない。対象は歴史を反省しない、誤れる日本人なのである。従って、正しくは「虐日史観」と表現すべきものである。

では、彼らはなぜ「虐日」に夢中になるのか。それは自分を良心的な人間であると美化したいから、としか思えない。他人を貶めることによって、自己を美化するのであるから、それは完全に偽善

この虐日日本人が同胞を喜々としていじめまくる現象を、どのように理解できるだろうか。私はそれは、ドメスティック・バイオレンス(DV)だと考える。DVは普通、「家庭内暴力」と訳されるが、それは国家や民族の規模においても考えることができる。

結局、虐日日本人の行為こそ、日本民族を標的とした、言論によるすさまじい暴力であり、今流行の言葉で言えば、ヘイトスピーチに他ならない。彼らが非難して止まないヘイトスピーチを、自分自身が熱狂的にやっているのである。〃おわり



米グレンデール市に設置された慰安婦像。歴史問題で、日本の名誉は汚され続けている

(元東京大学教授)